

# 千葉県保育士登録者の就業状況に 関するWEBアンケート

## 結果報告書

千葉県健康福祉部子育て支援課  
令和8年3月16日

## 1. 調査の概要

### (1) 調査の目的

県では、国・市町村と連携して保育の受け皿づくりを進めています。その土台となるのが、現場で子どもたちを支える保育士です。今回のアンケート(回答 9,599 人、自由記述 4,105 件)は、現任・潜在保育士※の「いま」「これから」の声を集め、働き続けやすい環境づくりにつなげるために実施しました。

※「潜在保育士」…保育士登録を行っていないながら現在保育士として働いていない方

### (2) 調査の対象

県内保育士登録者(令和7年3月末時点)のうち、令和7年中に 60 歳以上になる方及び令和4年以降に保育士登録を行った方を除いた **62,676 人**

### (3) 調査期間

令和7年11月20日～令和7年12月5日

### (4) 調査方法

郵送配付、ちば電子申請サービスにより回答

### (5) 回収状況(令和 8 年 2 月 28 日時点)

- ①送付数 : 62,676通
- ②返戻数 : 19,032通
- ③回収数 : 9,599通
- ④回収率 : 21.99% {③/(①-②)}

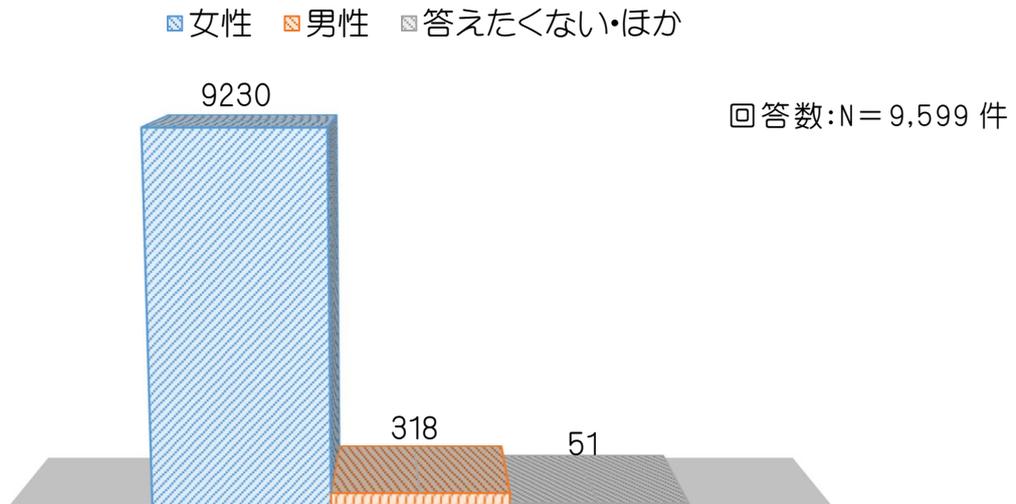
### (6) 調査項目

就業状況、働き続けたい・戻りたい条件、自由意見 ほか

## 2. 調査回答者のプロフィール

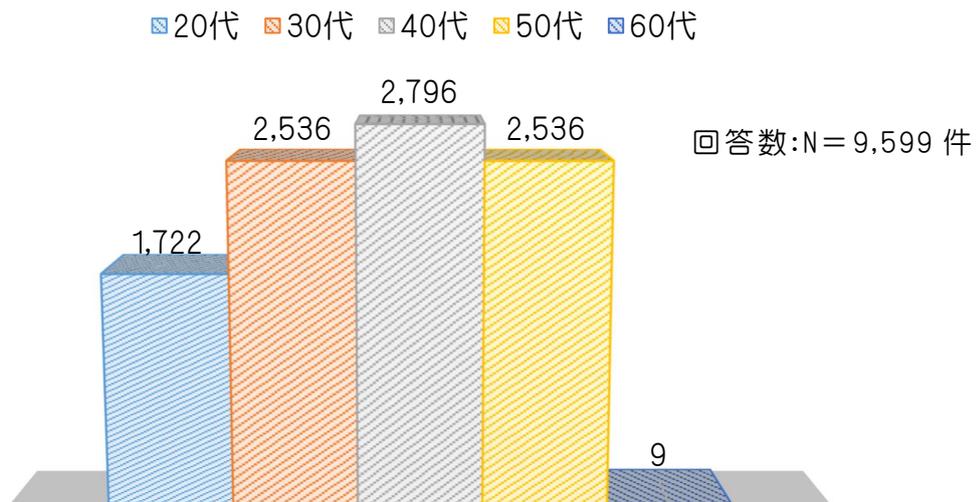
### (1) 性別

女性が 9,230 人 (96.2%)、男性が 318 人 (3.3%)、答えたくない・その他が 51 人 (0.5%) となりました。回答者全体における女性の割合が非常に高いことが特徴です。



### (2) 年代

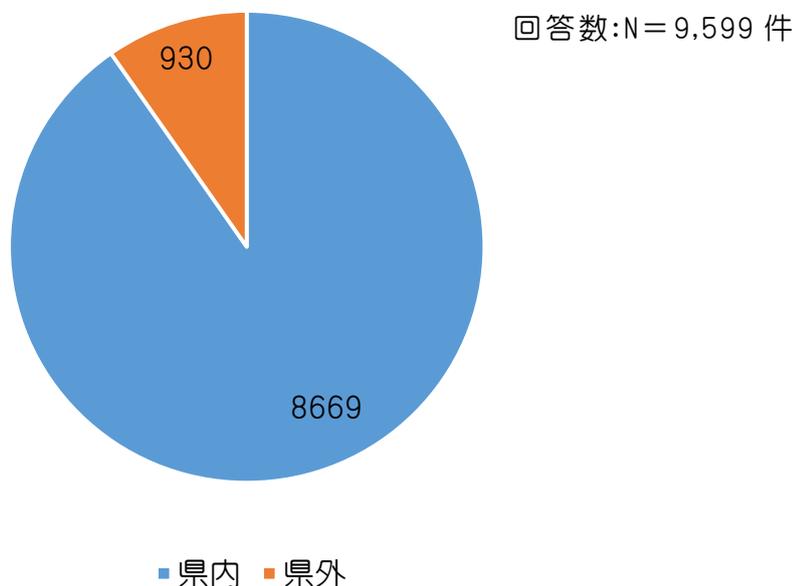
年齢分布は、20 代が 1,722 人 (17.9%)、30 代が 2,536 人 (26.4%)、40 代が 2,796 人 (29.1%)、50 代が 2,536 人 (26.4%)、60 代が 9 人 (0.1%) となりました。40 代が最も多く、続いて 30 代・50 代の順に多い結果となっています。



※調査対象の設定上、60代は極めて少数となっています。

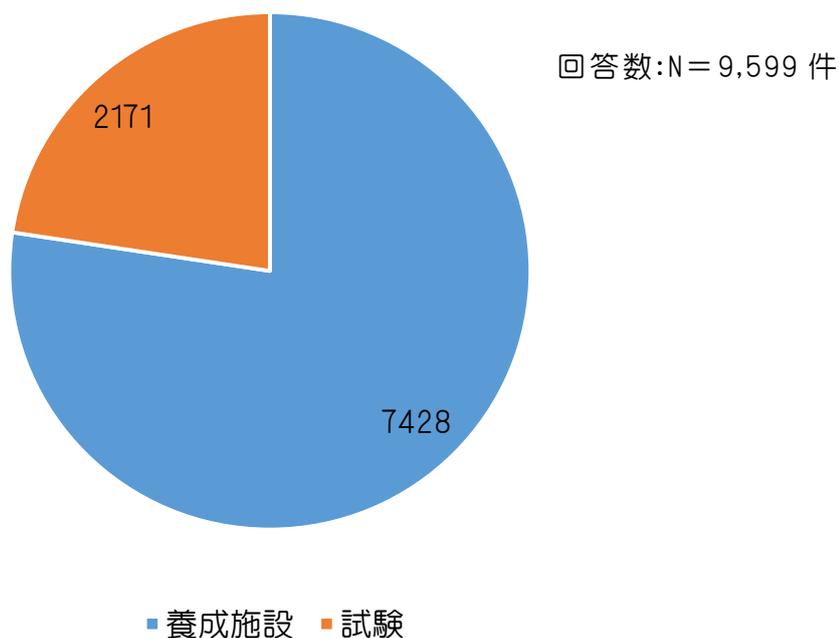
### (3)居住地

「県内」が 8,669 人(90.3%)と大多数を占め、「県外」は 930 人(9.7%)でした。県内在住者が多いことから、本アンケートは主に県内の意見を反映していると考えられます。



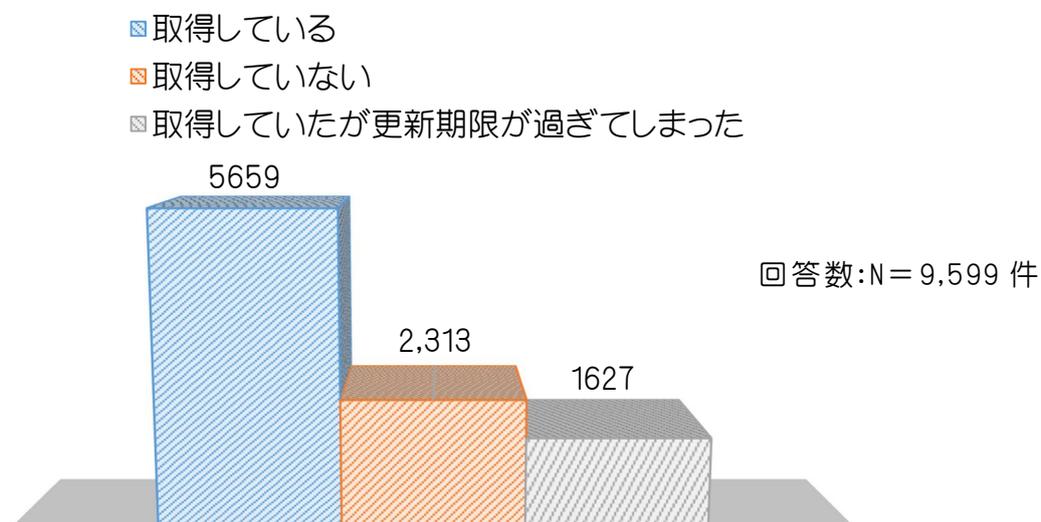
### (4)資格取得方法

保育士資格の取得方法については、「指定保育士養成施設卒業(大学・短期大学・専門学校)」が 7,428 人(77.4%)と大多数を占めていました。一方、「保育士試験(地域限定保育士試験を含む)合格」は 2,171 人(22.6%)でした。これより、多くの保育士が養成施設を経て資格を取得していることがわかります。



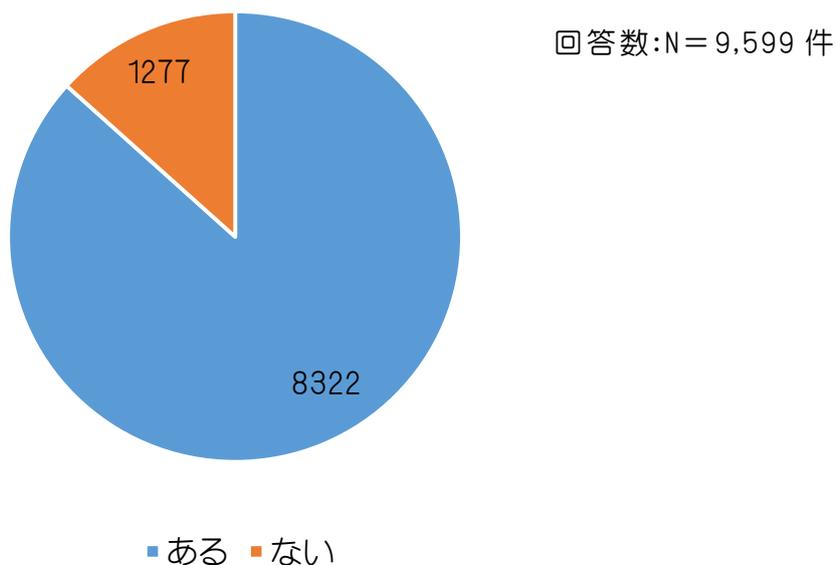
### (5) 幼稚園教諭免許の取得状況

「取得している」が 5,659 人(59%)、「取得していない」が 2,313 人(24.1%)、「取得していたが更新期限が過ぎてしまった」が 1,627 人(16.9%)となりました。現在有効な免許を持っている方は約 6 割であり、約 2 割の方は免許を取得していませんでした。



### (6) 保育士資格取得後の就業状況

保育士として働いたことがあるか尋ねたところ、「ある」と回答した方が 8,322 人(86.7%)、「ない」と回答した方が 1,277 人(13.3%)となりました。多くの資格取得者が実際に保育士の職に就いていることがわかります。



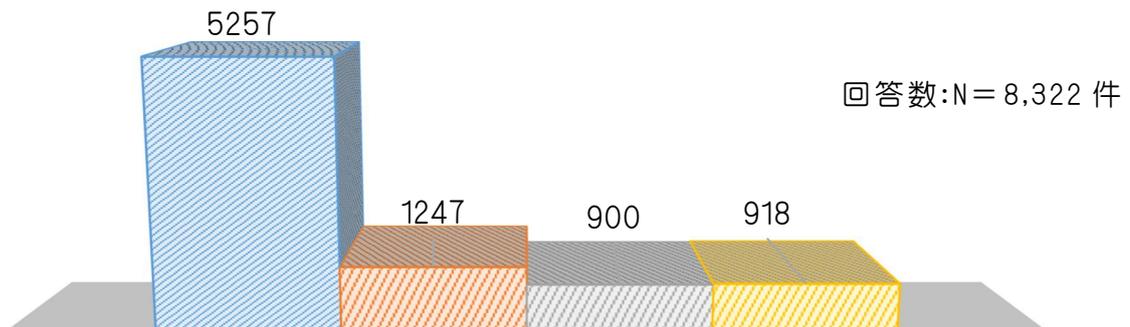
### 3. 保育士経験について(保育士として従事している・従事していた方)

※2(6)で「ある」と回答した 8,322 人が回答対象

#### (1) 保育士として初めて働き始めた時期

最も多いのは「資格取得後 1 年未満」で 5,257 人と全体の大多数を占めており、保育士資格を取得した人の多くが、比較的短期間で保育士として従事していることがわかりました。1～5 年未満が 1,247 人で次に多く、一定期間を経てから就職する層も存在しており、5～10 年未満(900 人)・10 年後以降(918 人)もほぼ同規模で、資格取得後に別職種の経験、育児やライフイベントを経てから保育士になる層も一定数いると推察されます。

- 資格取得後、1年未満
- 資格取得後、1～5年未満
- 資格取得後、5年～10年未満
- 資格取得後、10年後以降

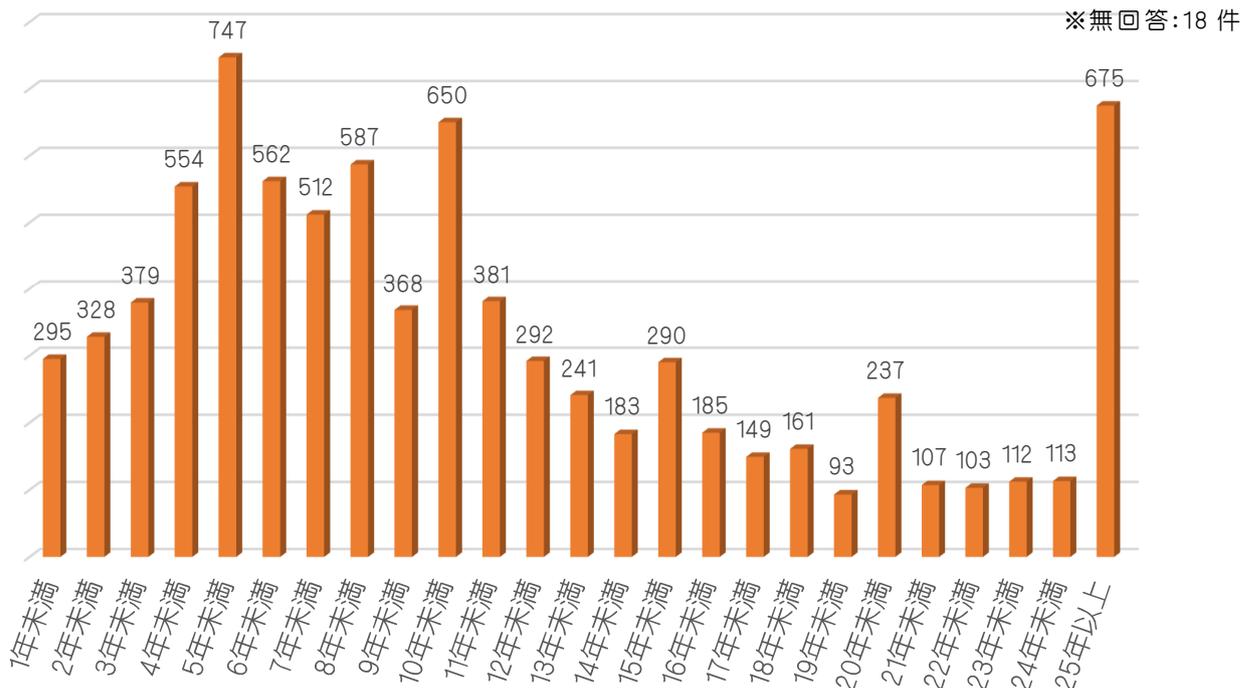


#### (2) 保育士として働いた期間

保育士としての勤務年数の分布は、経験 10 年以下の層が全体の約 6 割を占めており、現場の中心は経験の浅い層から比較的経験を積んだ中堅層で形成されていると推察されます。

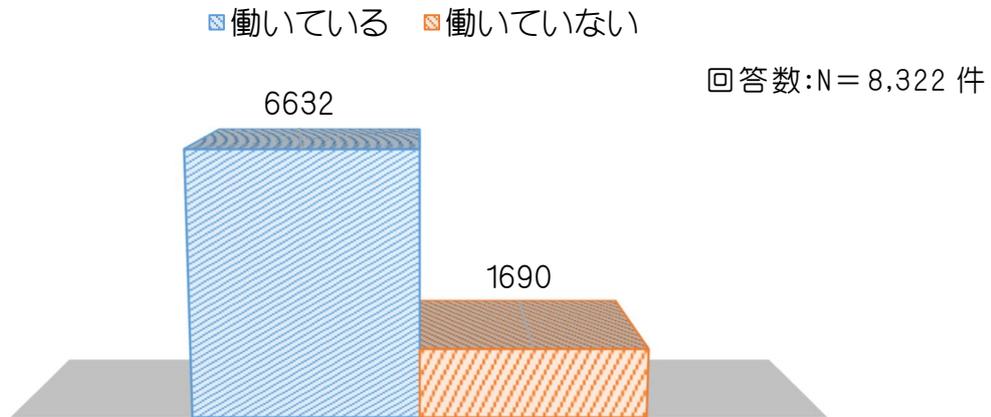
一方で、「25 年以上」の長期経験者が約 1 割存在しており、一定数のベテラン層が現場を支えている状況であることが見受けられます。

回答数: N = 8,304 件



### (3) 保育士の就業状況

「現在も保育士として働いている」と回答した人は 6,632 人で全体の 8 割弱を占めました。一方で、「働いていない」と回答した人は 1,690 人であり、一定数の離職者が存在していることも明らかとなりました。



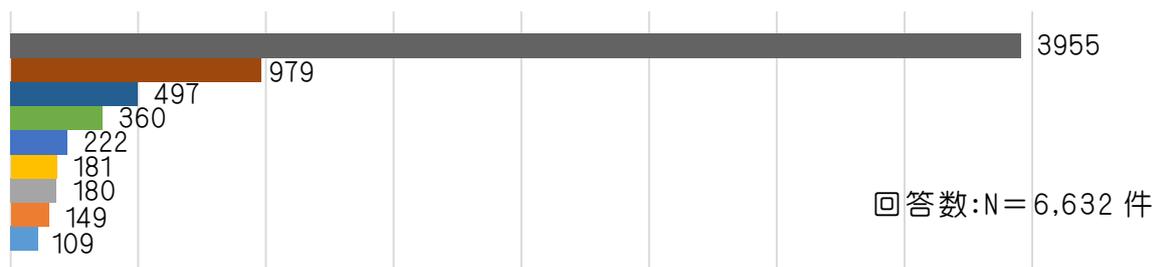
## 4. 現任保育士の実態について(現在保育士として従事している方への質問)

※3(3)で「現在も保育士として働いている」と回答した 6,632 人が回答対象

### (1) 現在の就業先

最も多かったのは「保育所」で 3,955 人と全体の過半数を占めました。次いで「認定こども園」が 979 人、「地域型保育事業」が 497 人と続き、主な勤務先は保育所・認定こども園・地域型保育事業の三つが中心となっていることが見受けられました。

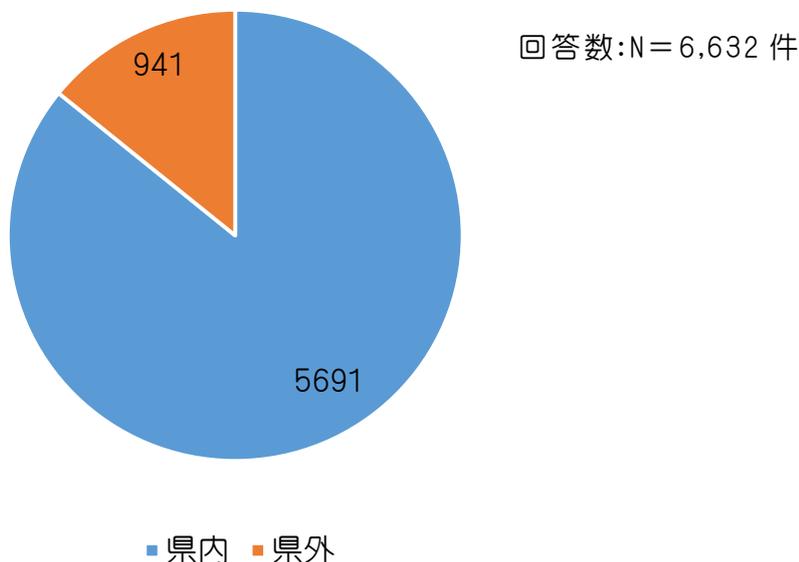
一方で、多様な福祉施設等で勤務している保育士も一定数見られ、保育士資格が幅広い領域で活用されている状況が確認できる結果となりました。



- 保育所
- 認定こども園
- 地域型保育事業 (小規模・家庭的・事業所内・居宅訪問型)
- 障害児関連施設
- 幼稚園
- 認可外保育施設 (ベビーシッター含む)
- その他の福祉施設等
- 児童福祉施設 (保育所・認定こども園・障害児関連施設を除く)
- その他の仕事

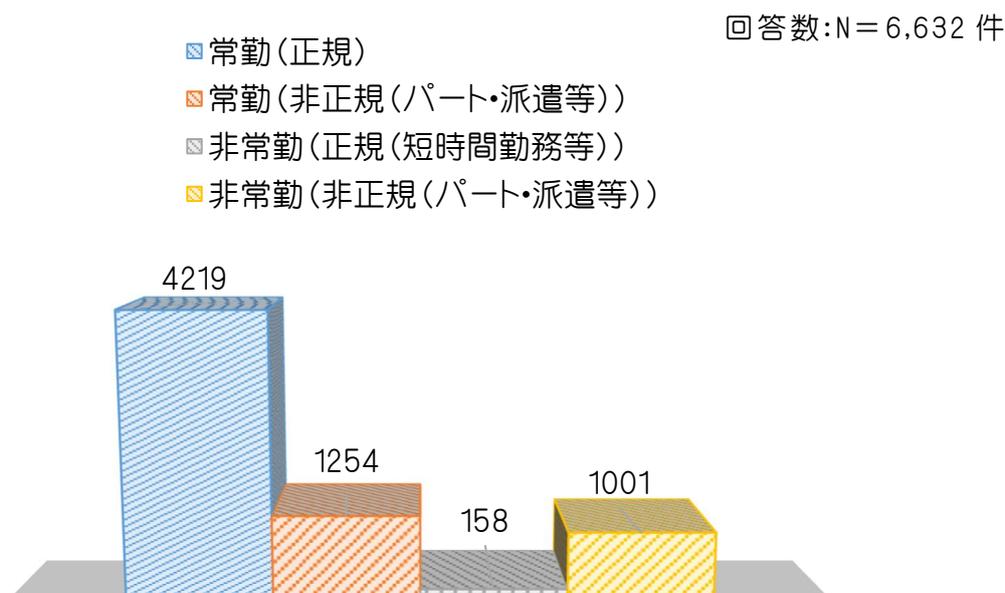
## (2) 就業先の所在地

「県内」で勤務している保育士は 5,691 人と全体の約 8 割を占め、県内就業が大多数となりました。一方、「県外」で勤務している保育士も 941 人おり、一定数が県外の保育施設や福祉施設で就業している状況が見受けられました。



## (3) 雇用形態

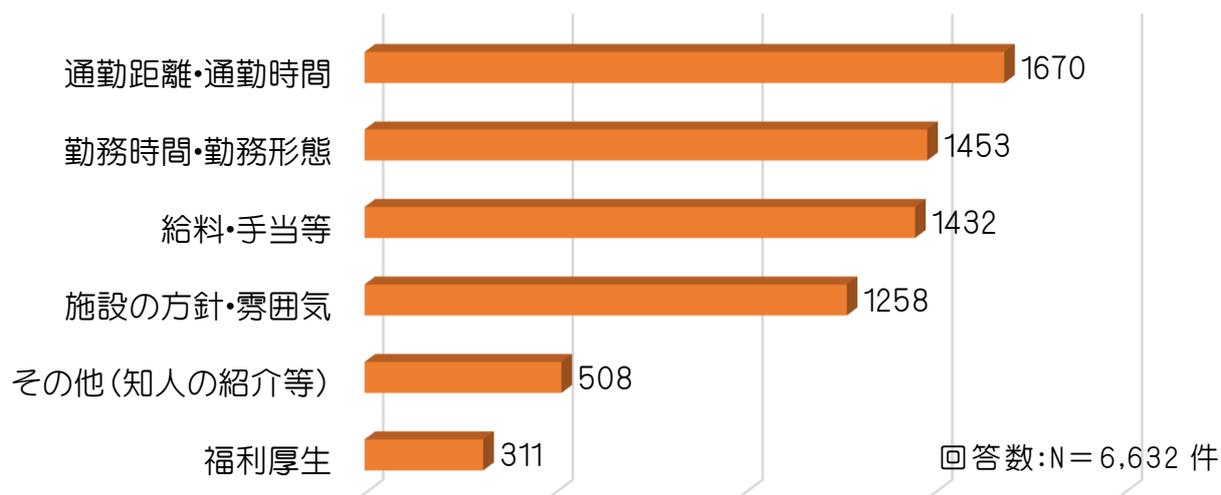
最も多かったのは「常勤(正規)」で 4,219 人と全体の半数以上を占めました。次いで「常勤(非正規(パート・派遣等))」が 1,254 人、「非常勤(非正規(パート・派遣等))」が 1,001 人となり、常勤・非常勤を問わず非正規雇用で勤務する保育士も一定数存在していました。また、「非常勤(正規(短時間勤務等))」で勤務している保育士は 158 人でした。



#### (4) 現在の就職先を選ぶにあたって最も重視した点

最も多かったのは「通勤距離・通勤時間」で 1,670 人となり、働きやすさや通いやすさを重視する傾向が強く見受けられました。次いで「勤務時間・勤務形態」が 1,453 人、「給料・手当等」が 1,432 人となり、働き方の柔軟性や収入面も就職先を選ぶにあたって重要な要素となっていることがわかりました。

また、「施設の方針・雰囲気」を重視した回答も 1,258 人と多く、職場環境や人間関係を重視する傾向も一定程度確認できました。一方、「福利厚生」は 311 人と比較的少なく、「その他(知人の紹介等)」は 508 人となり、個々の事情や紹介などの要因が影響したケースも見受けられました。

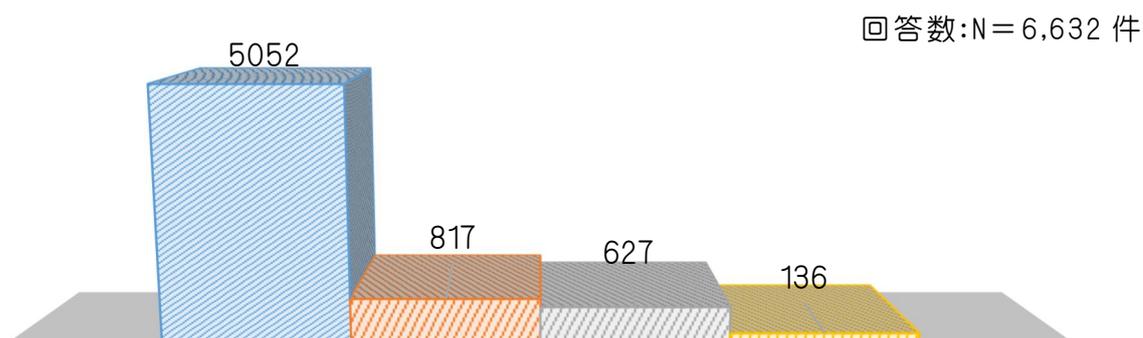


#### (5) 今後の就業継続予定

「現在配属されている施設で今後も保育士として働く予定」と回答した方が 5,052 人と最も多く、全体の大部分を占めました。安定して現在の職場で働き続けたいと考える方が多数であることがうかがえます。

一方で、「転職を検討中(転職後も保育士)」とした回答は 817 人、「転職を検討中(転職後は保育士以外)」は 627 人となり、転職意向を持つ方も一定数存在しています。また、「退職予定」と回答した保育士は 136 人で、離職を視野に入れている層も確認されました。

- 現在配属されている施設で今後も保育士として働く予定
- 転職を検討中(転職後も保育士)
- 転職を検討中(転職後は保育士以外)
- 退職予定



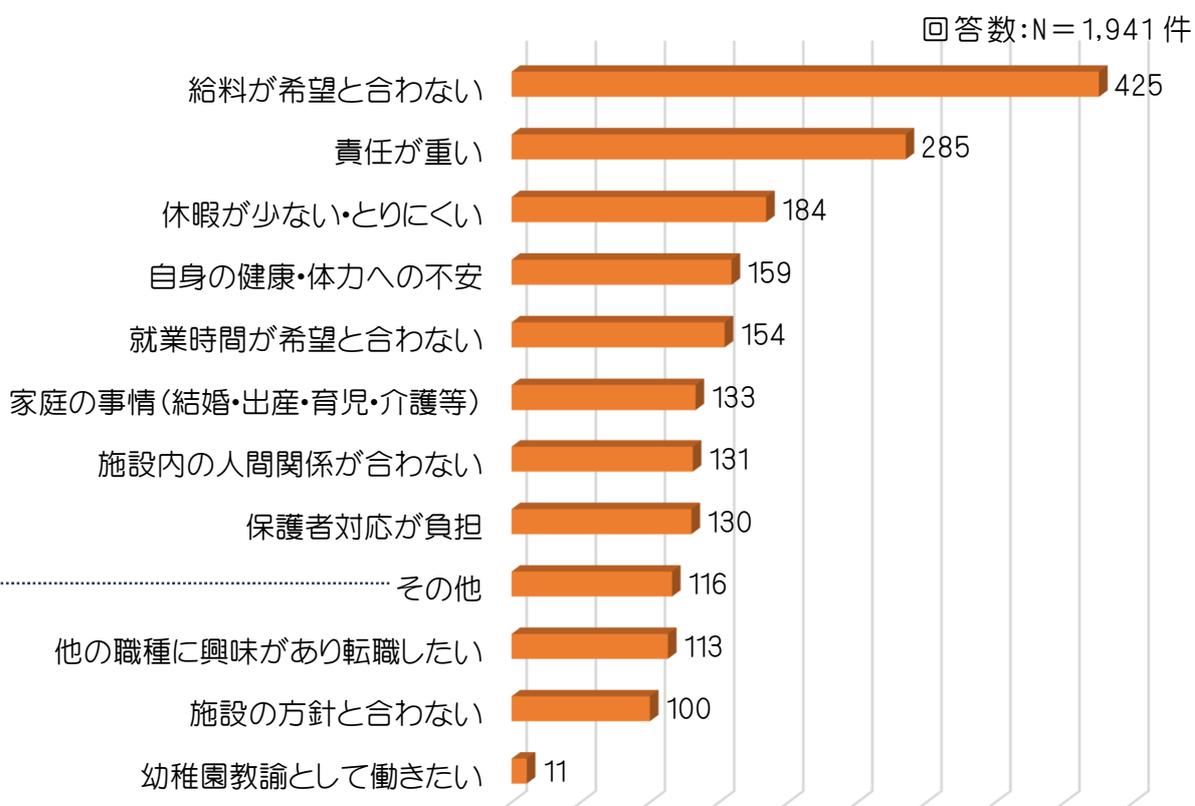
## 5. 保育士から転職・退職を検討している保育士就業経験者の実態について

※4(5)で「転職を検討中(転職後は保育士以外)」「退職予定」と回答した 763 人が回答対象

### (1) 保育士以外への転職、退職を検討している理由(※最大3つまで)

「給料が希望と合わない」が最も多く、待遇面の不満が主な要因となっていました。次いで「責任が重い」や「休暇が少ない・とりにくい」など、業務負担の大きさ等に関する回答が続きました。また、「就業時間が希望と合わない」「健康・体力への不安」「家庭の事情(結婚・出産・育児・介護等)」といった、働き方や生活との両立に関する理由も多く見受けられました。

これらの結果から、待遇、業務負担、働き方、家庭・健康面など複数の側面が転職・退職検討の背景となっていることがうかがえます。



#### その他抜粋

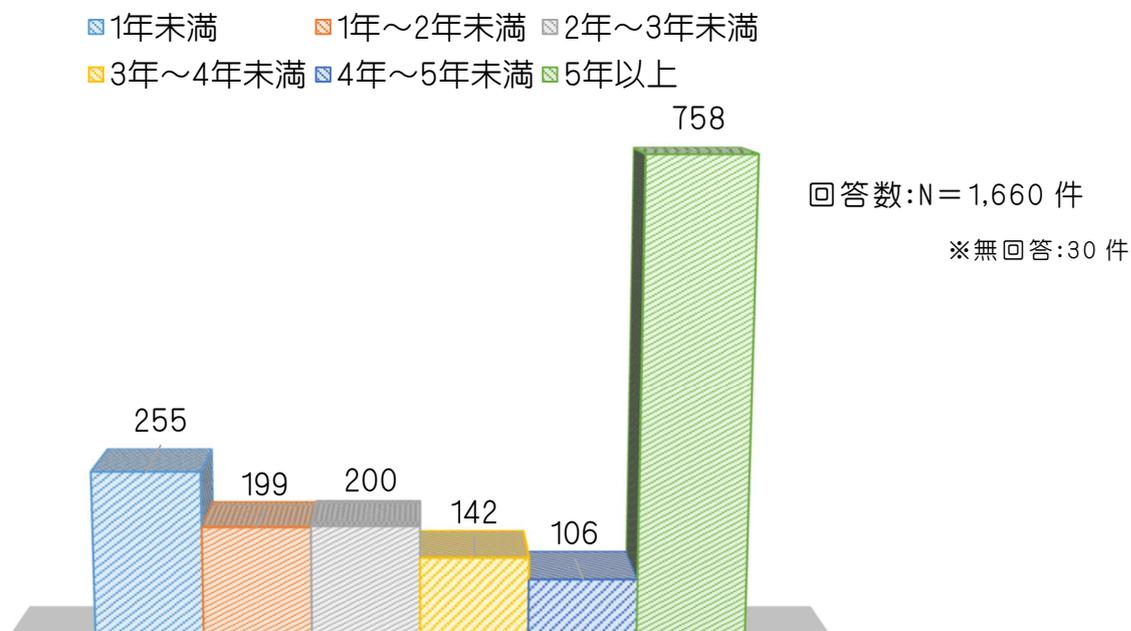
- \* 持ち帰りの仕事が多い。業務量が多い。
- \* 引っ越しで職場が遠くなったため。
- \* 同僚、上司からのハラスメント 等

## 6. 過去保育士就業経験者・保育士就業未経験者の実態について

※1(6)で「ない」と回答した 1,277 人、並びに1(6)で「ある」と回答し、かつ2(3)で「働いていない」と回答した 1,690 人(計 2,967 人)が回答対象

### (1) 保育士の仕事を辞めてからの経過年数

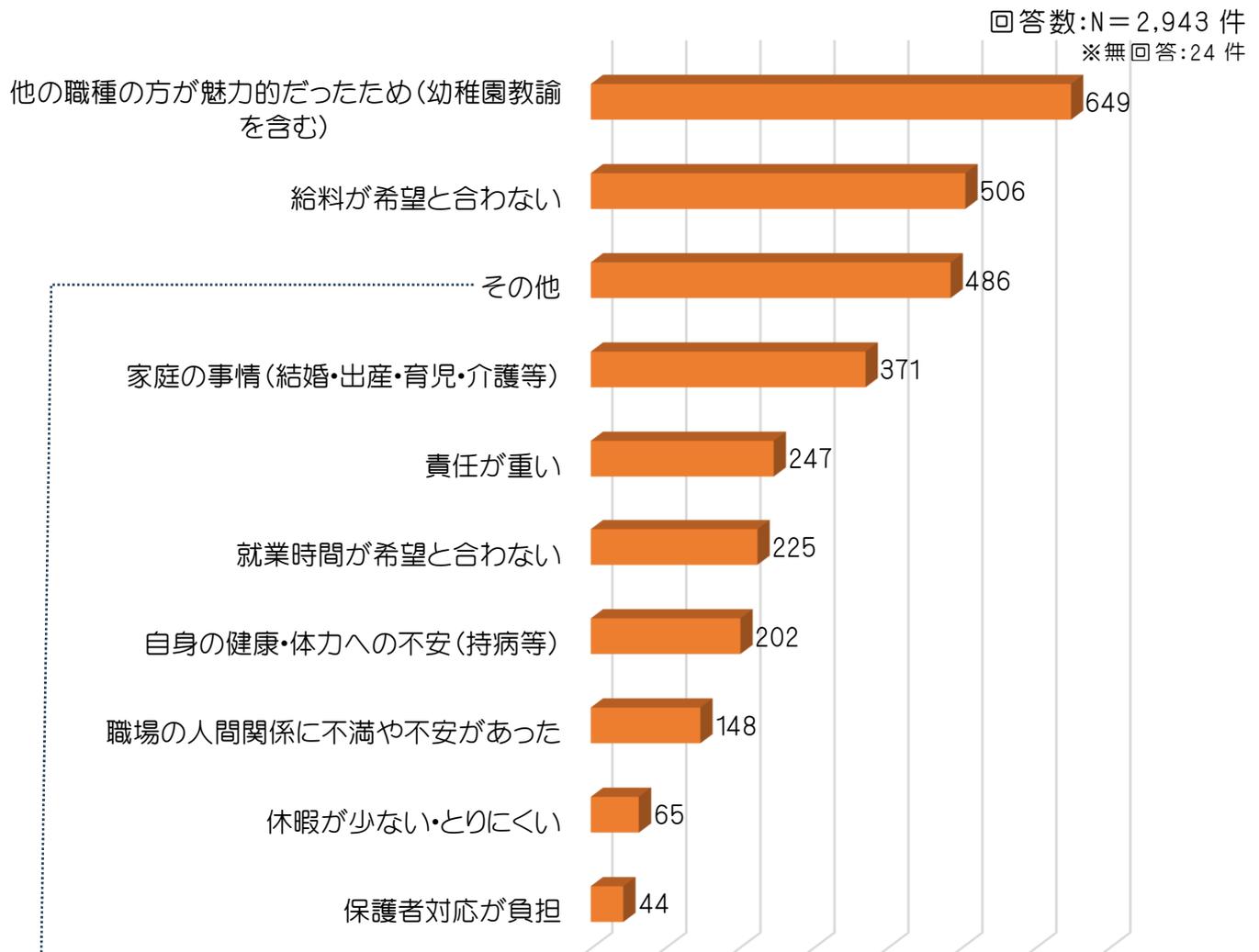
最も多かったのは「5年以上」で 758 件と全体の約半数を占めました。次いで「1年未満」が 255 件となり、直近で離職した層も一定数見受けられました。なお、「3年未満」(1年未満～2～3年未満まで)の合計は 654 件で、離職後比較的早い時期の回答も 4 割弱を占めており、離職後の期間には幅があることがうかがえます。



## (2) 保育士として働いていない理由

最も多く選ばれたのは「他の職種の方が魅力的だったため(幼稚園教諭を含む)」で649件となり、キャリア志向による転職が最大の要因となっていました。次いで多かったのは「給料が希望と合わない」の506件、「家庭の事情(結婚・出産・育児・介護等)」の371件で、家庭との両立の難しさや待遇面への不満も大きな理由として挙げられました。

そのほか、「責任が重い」(250件)、「職場の人間関係に不満・不安があった」(229件)、「自身の健康・体力への不安」(204件)といった負担や不安に関する回答も多く、保育現場の厳しさが離職理由の背景にあることがうかがえます。



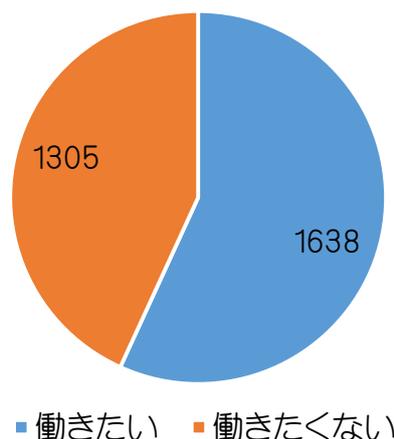
### その他抜粋

- \* 転職した(する)ため。
- \* 業務量が多い、給料等が希望と合わない等の複数の要因があるため。
- \* 病気になったため 等

### (3) (2)で選択した理由が改善された場合の就業意向

再就業意向については、「働きたい」と回答した人が 1,638 人と最も多く、一定数の保育士が条件次第で再び保育士として働く意向を持っていることが示されました。一方で、「働きたくない」と回答した人も 1,305 人おり、改善があっても保育士への復帰を望まない層も少なくないことがわかりました。

この結果から、働き方や処遇などの改善が再就業促進につながる一方で、保育士以外の道を選択した理由が強く、復帰意向が低い層も存在していることがうかがえます。



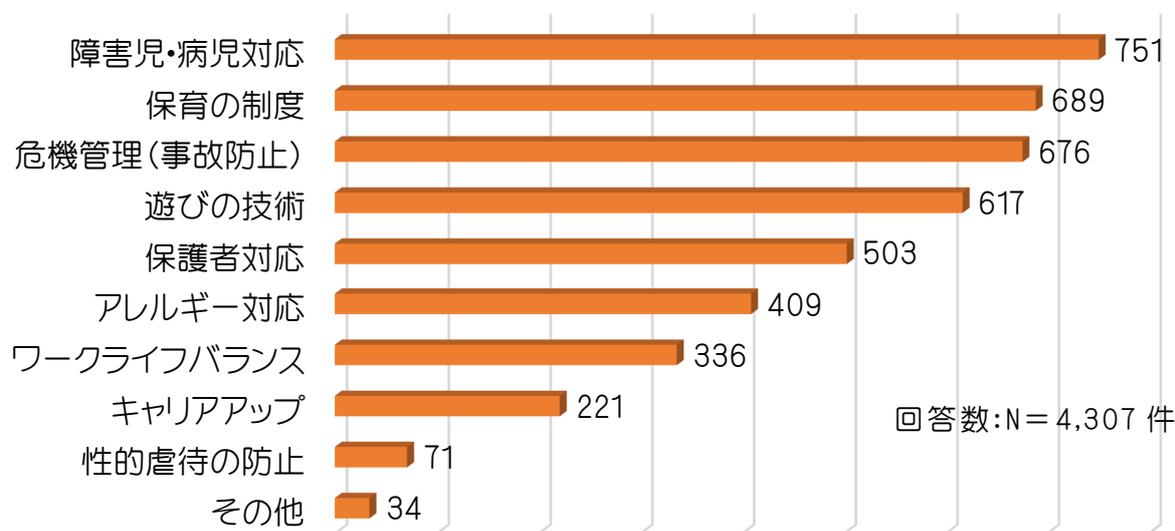
回答数:N=2,943 件  
※無回答:30 件

(※最大3つまで)

### (4) 再就職にあたって受けたい研修( (3)で【働きたい】と回答した方が対象)

最も多かったのは「障害児・病児対応」で 751 件となり、専門的な支援に関する知識や対応力の向上を求める声が多く見受けられました。次いで「保育の制度」(689 件)、「危機管理(事故防止)」(676 件)が多く、制度理解や安全管理に関する研修ニーズも高い傾向が確認されました。

さらに、「遊びの技術」(617 件)や「保護者対応」(503 件)、「アレルギー対応」(409 件)など、日常の保育に直結する実践的な研修を求める回答も多く見受けられました。これらの結果から、専門性の強化と実践力の両面で学び直しを希望する傾向がうかがえます。



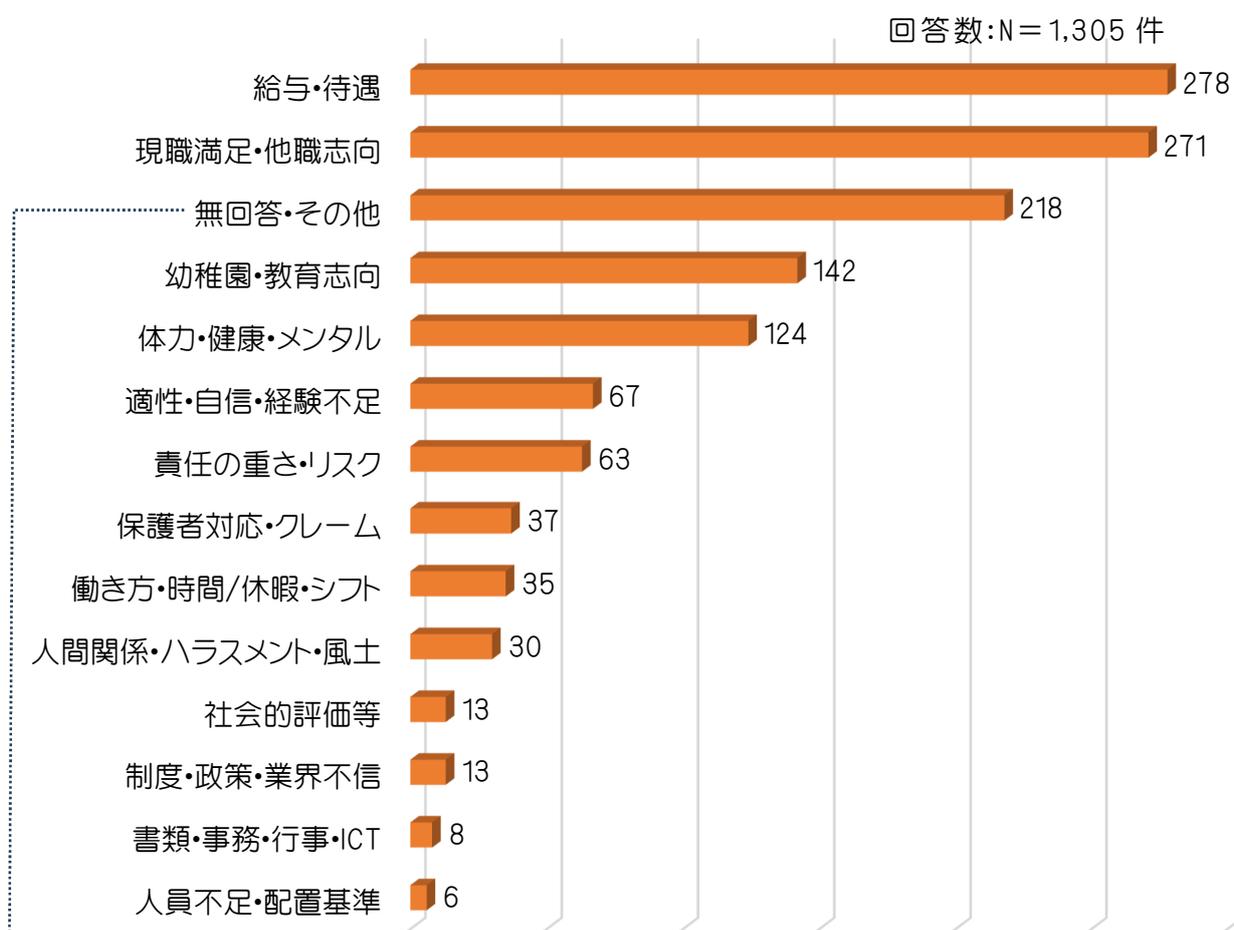
回答数:N=4,307 件

(5) 改善した場合に働きたくないと考える理由((3)で【働きたくない】と回答した方が対象)

本調査では、回答者から寄せられた自由記述 1,305 件について、内容の近さとキーワードを手掛かりに単一のカテゴリに整理しました。自由記述は表現が多様であるため、最も適合度の高いカテゴリに分類しています。

結果、最も多かったのは「給与・待遇」で 278 件でした。処遇・賃金に対する不満・改善要望が多く挙げられていました。次いで「現職満足・他職志向」が 271 件、「幼稚園・教育志向」が 142 件、「体力・健康・メンタル」が 124 件、「責任の重さ・リスク」が 63 件と続いており、現在の職(他職種)への定着志向、教育志向(幼稚園等)、健康・体力上の制約、そして保育士特有の高い責任負担が離職・復職困難の大きな要因であることが読み取れます。

これらの結果から、給与や待遇の改善だけでは課題の解消は不十分であり、複数の要因に同時に対処する包括的なアプローチが必要であることが示唆されます。



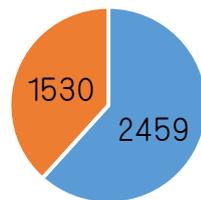
その他抜粋

- \* 理由が複数あるため、1つに絞って回答できない。
- \* 適性がないと感じたため。
- \* 改善される見込みがないため。 等

## 7. 東京都での就業意向について

保育士登録後、東京都内で働きたいかを自由記述で尋ね、その回答を「ある」「ない」の2つの傾向に分類しました。その結果、「ある」が2,459件で全体の約6割を占め、最も多いことがわかりました。一方、「ない」は1,530件で、都内での就業を想定していない人も一定数いることが確認されました。

このことから、東京都内で働くことに関心がある人が多い一方、地域の事情や生活環境などの理由で都内就業を選ばない人も少なくないことがうかがえます。



回答数:N=3,989件

※自由記述であり、中立的・条件付きの可能性があるので、参考値として集計

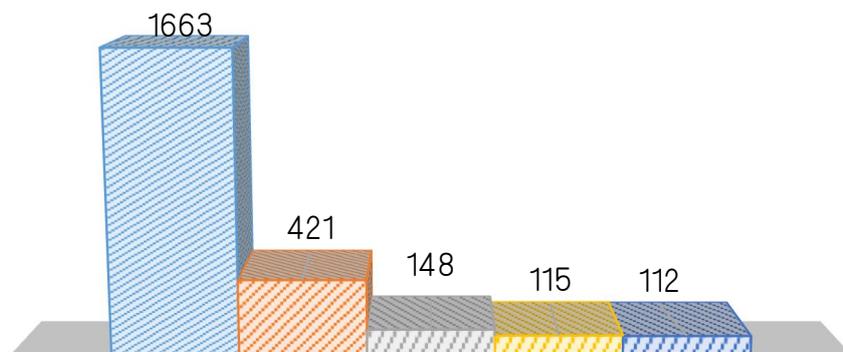
■ある ■ない

「東京都内で働きたいと思ったことがある」と回答した2,459件について理由を整理したところ、最も多かったのは「給与・待遇(賃金/手当/福利厚生)」で1,663件と全体の約7割を占めました。次いで「通勤・居住/利便性(近さ/移住/交通)」が421件となり、生活や移動のしやすさを理由とする回答も一定数見受けられました。

そのほか、「都内勤務」(148件)、「キャリア・保育環境(研修/質/施設多様)」(115件)、「働きやすさ・体制(人員/休暇/残業/制度)」(112件)も確認され、待遇面を中心に、利便性やキャリア面、勤務環境面など複数の要因が東京都内就業への関心につながっていることがうかがえます。

- 給与・待遇(賃金/手当/福利厚生)
- 通勤・居住/利便性(近さ/移住/交通)
- 都内勤務(勤務中/経験あり:理由不明含む)
- キャリア・保育環境(研修/質/施設多様)
- 働きやすさ・体制(人員/休暇/残業/制度)

回答数:N=2,459件



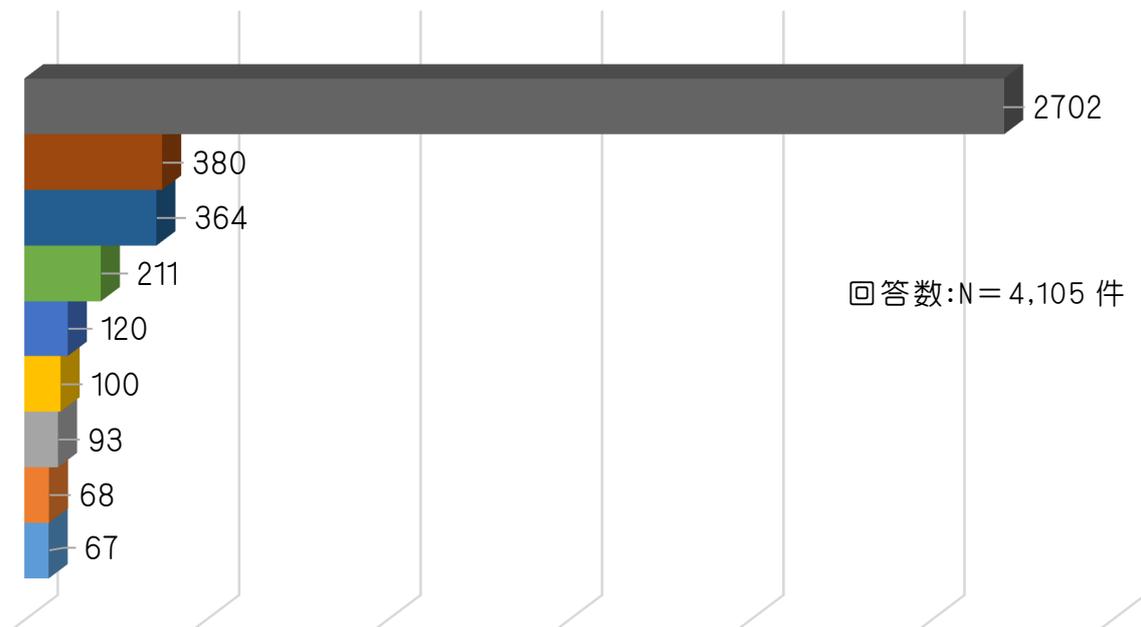
## 8. その他、保育の仕事等に関してご意見

今回の自由記述(4,105件)は、単なる意見の羅列ではなく、現場の保育士が日々どのような環境で働いているかを示す貴重なデータです。

自由記述の意見を複数のカテゴリに分類・整理したところ、最も件数が多かったのは「給与・待遇」(65.8%)、次いで「責任・社会的評価」(9.2%)、「人員不足・配置基準」(8.9%)と続きます。

これら上位3カテゴリだけで全体の約8割を占めており、「責任の重さ」→「人手不足」→「処遇の不足」という悪循環が自由記述に反映されていました。

内容を精査すると、保育士が訴えているのは単に「大変」という事実だけではなく、社会的役割の大きさに対し、制度や待遇が追いついていない問題等がうかがえます。また、「こども誰でも通園制度」や「休憩が取れない勤務体系」など、制度の運用と現場実態が乖離しているという指摘も目立ちました。



- 給与・待遇(賃金/手当/賞与/処遇改善)
- 責任・社会的評価(重圧/専門性/イメージ)
- 人員不足・配置基準(人数/加配/定員)
- 制度・行政・補助金(誰でも通園/監査)
- 保護者対応・クレーム(要求/カスハラ/適正利用)
- 休憩・休暇(有休/看護休暇/時短)
- 残業・持ち帰り・シフト(時間外/早番遅番)
- 書類・事務・ICT(手書き/記録/連絡帳)
- 人間関係・ハラスメント(パワハラ/モラハラ)

(※以下、意見抜粋)

カテゴリ	意見抜粋
給与・待遇(賃金/手当/賞与/処遇改善)	<p>保育の仕事は子供の命を預かる、とても責任がある仕事です。ですが、あまりその仕事を理解されていないのが現状です。保育士の数も足りず、退職してしまう保育士も多いです。退職してしまう原因の1つとして、責任や重労働の割に給料が安いことが挙げられます。全国の保育士の給料が少しでも多く上がり、保育士のやる気や退職に少しでも歯止めがかかってほしいと感じています。</p>
	<p>現在保育士として働いているが、仕事量に対しての給料が全く見合わないことや、労働時間への融通のきかなさがあるため、今後他業種への転職も視野に入れて考えなければならない。保育士という職業を続けたくても、続けられない難しさがある。</p>
	<p>やりがいのある仕事だが、給与が安すぎると思う。学生のバイト時給とほぼ変わらない。責任の重い仕事なのに時給が安いので、気楽な仕事に転職しようか考えてしまう。</p>
	<p>保育士に求めるスキルが多すぎます。保育は、福祉であってサービス業ではありません。補助金や、処遇改善交付金等を上げてもらい、給料と見合ったスキルを求めるべきだと感じます。</p>
	<p>30年前と比べると、給料がかなり良くなっていますが、仕事内容の割に全国的にまだ賃金が低いと感じます。年々、配慮が必要な子どもがかなり増加していると感じています。給料が改善されると保育従事者も増えて、より安全で過ごしやすい環境が得られるのではないかと思います。</p>
	<p>不適切保育というワードばかりがここ数年一人歩きしてるように感じます。また処遇改善手当が出されても潤うのは一定の層だけで、これからを担っていく若手の先生たちはどんどん辞めていくのはどうにかならないのでしょうか？</p>
	<p>保育士不足で残業の日々です。若い先生方が保育士に魅力を感じたとしても、やはり給料面で悩んでしまう方も多くいるのではと思っています。もちろん働いている側からも仕事に見合った給料をもらっているとは思えず、命を預かる仕事をしている保育士にもっと給料基準を上げてほしいと強く願っております。</p>
	<p>大事な子どもを預かる仕事にしては給料が低く、事務仕事も多いなど保育士1人の負担が大きい。子ども1人に対して担当する保育士の数を増やして、保育士が働きやすい環境作りをお願いしたいと思います。</p>
	<p>体力もそうですが、保護者対応も精神面でも年々大変になったりしている。持ち帰りもある。給料と見合っていない為、離職率が高いと以前から言われていて、補償などはあるが、給料はそれ程変わっていないと感じる。</p>
責任・社会的評価(重圧/専門性/イメージ)	<p>専門職なのに給料が安すぎてモチベーションが下がる。</p>
	<p>何をするにも「不適切保育」と言われてしまい、働きづらいです。</p>
	<p>不適切保育に関する報道が多く、仕方がないことかもしれませんが、誠実にやっている保育士への目が厳しくなっていることに嫌悪感を抱いています。今後保育士が快く楽しく働けるようになっていけたらいいと思います。</p>
	<p>保育の仕事は他の職種では味わえない体験や経験が沢山あります。しかし、世界が狭くなってしまいがちです。他園との交流や情報交換などができる機会があれば少しでも世界が広まると思います。福利厚生や保育環境などを整えることが必要だと思います。</p>
	<p>乳幼児というとても大事な時期に関われること、専門性が必要な職種だと思います。社会的な認識が高まればいいと思います。</p>
<p>保育士の仕事が世間にまだ理解されていない事が多いように思います。もっと理解が深まるように認知をお願い致します。</p>	

	<p>責任と仕事量、制限が増えるばかりで、保育の楽しさを感じられる場面が減っているため、仕事が楽しくないと思うことが増えた。</p> <p>ハードで責任が重いので、短時間で職場が近所であれば、負担少なく働けるかと思う。働く形態の選択肢が多いといいと思う。</p> <p>とても責任ある仕事。命を預かる責任を仕事としている保育士や介護士の対価が高くなることを切望する。</p> <p>人間なので子どもに対してきつく言わなくてはいけない時もあるのに、心理的虐待などで片付けられ、保育士が悪いようになってしまうところはどうかと思う。このままでは保育士になる人はますます減ってしまうのではないかと思う。</p> <p>保育の仕事はとても大切な仕事であるにも関わらず、昔から冷遇が変わっていないのが残念です。保育士さんたちはもっと優遇されるべきだと思います。改善を切に願います。</p>
<p>人員不足・配置基準 (人数/加配/定員)</p>	<p>人員不足で、ゆとりが無く、楽しく保育が出来ているとは言えない。</p> <p>子どもの命を預かり、その子どもの今後の人格に大きな影響を与える幼児期に、多くの時間を共に過ごせるこの仕事に、誇りを持って勤めています。しかし、最近では保育の質の低下どころか、保育士が虐待をする事件が後を絶ちません。子ども達の安全を守るためにも、心の余裕ができる職場環境になってほしいと切に願います。人員配置など、工夫できるところは沢山あると思われます。何か起こってから遅いため、対応策を国や自治体で検討してもらえたらと思います。</p> <p>職員配置定数について、3歳児から5歳児の定数が改正されましたが、その程度の改正では焼石に水だと思います。0歳児 2:1、1歳児 3:1、2歳児 5:1、3歳児 10:1 くらいでない子どもたちを安全に見守ることはできません。そして、例えその配置を実現したとしても、保育士側の責任が重すぎます。子どもが大好きだし、保育士という仕事も大好きですが、何か起こってから後悔しても遅いので現状の改善がない限り私が保育士に戻ることはありません。</p> <p>子どもの人数あたりの保育士の配置人数について、最低限度の人数が設定されているが、その人数がいれば良い、とされていて、事務仕事を含めると、とても足りていないと感じている。求められること、事務仕事は増えているが、現場の人数が足りず、常に残業(サービスが多い)をしなければ仕事が終わらない。疲れが溜まり、長く続けられないと感じている。全国的に事務仕事の削減を呼び掛けるか、配置人数を多くすることは出来ないか。</p> <p>とても素晴らしい仕事なのに、いつも人手不足の状況の園が多いと思います。そうなることで、質のよい保育ができなくなることもあるのではないかと思う。</p> <p>近年、発達障害などの傾向が強いお子さんが多数見受けられ、日々の保育においてそういったお子さんに、人員や時間が割かれる事が多くなってきています。早期の療育のスタートや療育の必要性、又はそういったお子さんに専属で対応できる人員の配置など、現場での対応だけでなく、行政との連携やガイドライン、システムの構築などができると良いと思います。</p> <p>国の配置基準だと厳しい。支援が必要な子が増えていて、日々の保育や教育が今の配置基準だと不十分である。</p> <p>保育の仕事は、とても子どもの笑顔に繋がる事が多く、やりがいを感じられる為大好きです。ただ、保育士の配置人数に対しての子どもへの割合は見直しをお願いしたいです。正職員が不足したまま、非常勤の職員で埋め合わせをして勤務をするのは、非常に精神的にも余裕がなくなり、子どもへの態度も余裕が無いものとなってしまいます。</p>

	<p>発達障害を始め、特性のある子どもが増えたり、より丁寧な保育をするために、配置基準の見直しが必要だとおもっています。</p> <p>子どもの人数に対しての保育士数を見直してほしい。またはフリーとして浮くような保育士を常に用意してほしい。</p>
<p>制度・行政・補助金（誰でも通園/監査/）</p>	<p>こども誰でも通園制度、今でもギリギリの人数でまわしているのに、クラス運営が崩壊し、保育士がつぶされます。保護者の意見ばかり尊重されますが、保育士、現場の声をしっかり聞いてほしいです。</p> <p>様々な補助金など、行政も頑張っただけで感謝しておりますが、誰でも通園制度については、やはり日常の保育だけでも保育士の不足状態ではありますので、やはり今一度、更に保育士の減少に繋がらないよう制度の見直しを希望します。</p> <p>「こども誰でも通園制度」は本当に実施されてしまうのか、職場でも話題になっている。現場の声を完全に無視し、課題が山積みのこの制度はどう考えても納得がいかない。</p> <p>監査を厳しくしてほしい。</p> <p>子どもたちが安心して安全に過ごす為の環境を作る事の出来る適切な配置人数、労働時間を再検討して欲しい。虐待や不適切保育に繋がらないよう、都度外部からの監査、審査などがあって良い。</p> <p>保育士の人数を増やさない、増えない状況で誰でも通園制度など、全く現場のことを考えないことに対して遺憾に思います。また、子どもの命を預かっている、大切な時期なのにと何か問題になると世の中から言われますが、まず働きやすい現場に国単位で動いてもらわない限り、保育現場には戻ろうと思いません。</p> <p>制度の理念は理解しますが、乳幼児にとって環境の変化は大きなストレスとなり、心身の負担が非常に大きいと考えています。子どもの最善の利益を第一に考えるなら、誰でも通園制度は慎重に検討すべきだと思います。</p> <p>保育園の中というのはやはり外部から見えづらい部分があって、そういう所を市や県が実際に見にきて、指摘してもらえたらありがたいと思います。</p> <p>人が足りず困る場面はまだ多いです。誰でも通園制度は人材確保が難しく現実にはかなり厳しいと思います。</p> <p>どの園でも抜き打ち監査や調査を行ってみてはどうでしょうか。問題が起きてからの園や、年1程の監査だけでは、園の実態が把握されず改善されないと思います。</p>
	<p>保護者の要望ばかりに寄り添い過ぎて、その分保育士に負担が大きくなっている。サービス化している。長時間保育、保育内容など。</p> <p>子どもたちの対応より、保護者の対応の方が大変なので、保護者支援の在り方や、保護者が子育てしやすくなるような環境が、保育施設以外で増えて欲しい。</p> <p>現在も今後も仕事は継続するつもりだが、責任の重さ、体力の不安、保護者支援の難しさに何度も転職や退職を考える事はある。</p> <p>不適切保育ということが問題になっていますが。保護者からの納得のいかない要求や、ルールを守らない行動など、保育士を守ってほしいです。</p> <p>オムツのサブスク等、保護者負担を減らしていく事には賛成だが、保護者の都合で子どもが長時間預けられる状況は改善してほしい。情緒が不安定な子どもの対応は心身ともに負担が大きい。</p> <p>保護者への対応が年々難しくなっています。子育ての基本的な知識や意識が低く、保育園に来てから保育士に説明され気づく方が多い(気づかない方も)です。親育てを保育と分離し、協働できるようにしてほしいです。</p>

	<p>やりがいもあるし、楽しいけれど、大変なことも多い。保護者の対応、行事の準備など、楽になれば良いと思う。</p> <p>親のニーズにばかり合わせて、どんどん保護者の要求が高くなり、現場は忙しさに追われ、子どもの育ちに何が大切かを見失っているように感じている。</p> <p>子供を見るのは当然ですが、それよりも保護者支援の方が大変だったりします。</p> <p>長く保育士として勤務していて、年々こどもは減ってきていますが、配慮が必要な子が増えたり、保護者対応に苦慮することも増え、保育士の精神的な負担が大きいと思います。物価上昇等や福利厚生も含め、手厚い対応を願っています。保育士として働き続けやすい環境も願っています。</p>
休憩・休暇(有休/看護休暇/時短)	<p>昼休みをきちんととれる環境が、どの園でも整備されるとありがたいです。そのためにはお昼の時間保育から離れられるよう、人材の確保が必要だと思うので、費用も人手も必要になるかと思っています。</p> <p>女性のライフステージに合わせた働き方(時短勤務、日勤、産休育休の体制が整っている)が可能である職場が増える事で、退職者は減っていくと思います。</p> <p>保育者の働き方の見直しなど必要ではないか？休憩がとれなかったり、行事の時のヘルプ、持ち帰りの仕事などもあるため、保育士を目指す学生さんへ手伝ってもらおうシステムを作るなど。</p> <p>休みが取りづらい雰囲気がある。</p> <p>保育士が少ないので、休憩もなくトイレも席を外しにくい状況で、労働時間も長い。保育士という仕事内容はとてもやり甲斐があっても、労働環境としては長く続けられるものではなかった。</p> <p>事務的に職員数は足りていても、職員が休暇を取った時の代替職員の確保はありません。複数担任の確保は、配慮の必要な子がいる為で、決して余裕のある職員配置ではありません。休憩時間も取り辛く、他の職員への負担を考えると、休み辛さを感じる職場環境になっていると思います。</p> <p>まとまった休みがとりにくそう。というイメージから敬遠してしまいます。世間が休みのお盆などに後ろめたくなく、若い世代でも気楽に休みを取れるようになればいいなと思います。</p> <p>保育園や幼稚園の保育士の仕事は、朝が早く、昼休憩もとれない。チームワークで働く為、休んでしまった職員がいるとサポートに入らないといけないので、大変で若い教育の担い手が少ない。ただ、やりがいのある仕事なので、働きやすい職場を作り、保育士の良さをアピールして欲しい。</p> <p>保育士の人数が本当に足りません。有給も使えず、休憩を取る時間もなくて働いています。一人保育士が休むと、保育が上手く回らない、という状況が続いています。どうか、保育士の人数を増やす対策をしていただきたいです。宜しくお願いいたします。</p> <p>家族の体調など、急な休みが取りづらいイメージがあり、まだ保育士キャリアに踏み出せずにいます。いつかは保育士として働きたいです。</p>
残業・持ち帰り・シフト(時間外/早番遅番)	<p>持ち帰り仕事等、サービス残業を無くして欲しいです。</p> <p>改善されてきているが、持ち帰り仕事やピアノの練習等、付かない残業が多い。保護者対応や子どもの様子も変わってきている今、配置人数はもっと検討してほしい。</p> <p>拘束時間が長くて、家での持ち帰り仕事までやって疲労が増すばかり。保育現場で起こる事故も他人事には思えません。気持ちが不安定になったり、ただカリキュラムをこなすだけの毎日が嫌になって幼稚園を退職しました。現場で働く人が、やりがいと心のゆとりをもって働ける職にしてほしいです。</p> <p>書類や研修、行事等に終われ、勤務時間内で様々な準備ができず、おもちゃ等も手づくりが良いみたいな雰囲気があり、週末になると持ち帰りをすることが多い。</p>

	<p>園によってだとは思いますが、負担の多い職種だと思う。昔からの当たり前が払拭されていない。</p> <p>書類作成や、製作物等を持ち帰るのではなく、勤務時間内に出来るように園で働き方を考えてもらいたい。</p> <p>残業や持ち帰りが多い仕事ですが、残業代は全くありません。土曜日出勤も多いので、今後子育てをしながら仕事を続けられるか不安があります。</p> <p>書類がもっと簡素化してほしい。もしくは事務時間の確保の義務化。時間外や持ち帰りでの仕事を極力ないようにしてほしい。また、子どもに対する配置人数をもっと現場に寄り添ったものになってほしいです。</p> <p>持ち帰りの仕事やサービス残業が多い。できるだけそれをなくそうという動きはあるが、実際はかなり持ち帰っており、家庭生活、育児に支障がある。この状況では、とても働きにくい。</p> <p>持ち帰り、サービス残業が当たり前の環境改善と意識改善が、保育業界全体で取り組んで欲しいです。</p> <p>残業や、イベントがあるたびに自宅に持ち帰りの制作物があるので、勤務内に出来て、定時で帰れるように保育士人数を確保して欲しい。制作物や掃除など、資格が無い方でも出来る仕事はあるので補佐が欲しい。保育時間(7時から8時まで)が長い事により、MAXで預けられている子どもがいるので、とても可哀想だし、保育士の勤務時間が変則的になり体力的にも辛い。</p>
書類・事務・ICT(手書き/記録/連絡帳)	<p>書類業務が多すぎる。重複した内容の書類が多い為、全体の決まりとして必要最低限の書類にするように決めてほしい。</p> <p>保育士の負担になる日常の仕事が多い。例えば子どもの食事のお手拭きや食事エプロンなどを使用後に洗うなど、時間や負担が大きい。使い捨てのエプロンやお手拭きでも衛生的にみても良いのではないかと思う。連絡帳や日誌などの負担も多いので、少しでも楽にできるところは変えて行ったほうが良いのでは、と感じる。</p> <p>ICT化を経験ししばらくやってみたが、仕事をもち帰らないと言う意味ではいいが、仕事量は変わらない、もしくはやるが増えているように感じた。園の方針もあるが期待していたより仕事量は減らなかった。</p> <p>常勤になった場合の事務仕事の負担を減らして欲しい。事務仕事の負担を考えると常勤への変更を躊躇してしまう。</p> <p>子どもたちの保育をするにあたっての書類などがとても多いので、もう少し軽減されないかと思う。</p> <p>仕事内容が多岐に渡りすぎている。各園に事務員や用務員の配置を必須にするなどして、保育士が保育や保育準備に専念できるようにしてほしい。</p> <p>書類記入や行事準備など、作業時間の確保が難しい</p> <p>業務改善が必要だと言われているが、持ち帰りの仕事が多かったり、書類などの仕事を増やされることが多く、全く業務改善がされていないと思う。</p> <p>毎月、毎週の書類が多い。</p> <p>事務の軽減など、少しでも負担が軽くなると良いと思う。また、職場体験などがあると、職場がわかりやすく入職しやすいと思います。</p>
人間関係・ハラスメント(パワハラ/モラハラ)	<p>保育の仕事は楽しいですが、保育の現場では人間関係が1番の悩みです。</p> <p>今の職場では、職員のコミュニケーション不足で人間関係に悩まされる事が多い。保育の価値観に温度差を感じ、モチベーションが上がらない。つまらない。</p> <p>やりがいはあるが、狭い環境での人間関係が難しい。開かれた保育、資質の向上が望ましい。また、インターネットの知識で保護者の保育に対する考え方が偏りがちであり、対応が難しい側面がある。</p> <p>人間関係の良い環境で働きたいです。</p>

	<p>保育園等で働く保育士のストレスチェックや相談窓口を広めて、職員間のわだかまりを減らしていけば、保育の質も良くなるように思います。</p>
	<p>人間関係が悪すぎる。上司からのパワハラがこの時代になってもいつまでもあり、辞めていく人、仕事にストレスをかかえる人が毎年絶えない。園長などに相談したところで現状変わっていない。第三者委員会など、相談できる場所がいいと少しは変わるのかな？とも思います。</p>
	<p>保育の仕事もちろん大変ですが、私が働いていた現場での体感や、現職の先生から聞く話によると、人間関係の複雑さが1番の離職の原因だと思われます。女性の職場は色々難しいことが多いです。陰湿ないじめもあります。心を病んでしまう先生が後を絶ちません。定期的に先生方が相談できる窓口があり、しっかりそれが現場に反映されるシステムになればと思います。</p>
	<p>資格を取得して働いたものの、職場でのパワハラで退職しました。資格を活かして働きたいとは思いますが、人間関係が怖くて二の足を踏んでいます。</p>
	<p>不適切保育、パワハラは多くの園で行われている。保護者が安心して子どもを預けられる様、保育士が安心して働ける様、行政は踏み込んだ調査をし、現場の声に耳を傾けて欲しい。</p>
	<p>人間関係が悪く、コミュニケーション不足のため仕事の連携が取れていない。</p>

※自由記述の抜粋は、誤字等の軽微な修正や表記の統一、個人を特定し得る記述の削除を行ったうえで掲載しています。原文の趣旨を損なう修正は行っていません。

## 9. 調査結果まとめ

本調査は、現任保育士の就業継続支援や潜在保育士の再就業支援に資することを目的として実施したものであり、回答者 9,599 人から、多様な働き方や就業意向、現場の課題が明らかになりました。今回の調査結果をまとめると、保育士の確保・定着に向けて、処遇面・勤務環境・制度運用・職場風土・働き方の柔軟性といった複数の観点で、課題が複合的に存在していることが浮き彫りになりました。

まず、給与・待遇への不満は現任保育士・潜在保育士の双方で最も多い課題であり、自由記述では 6 割近くが待遇に言及するなど、仕事内容や責任の重さに対して賃金水準が見合っていないとの声が目立ちました。

次に、制度運用と現場との乖離もたびたび指摘されています。特に「こども誰でも通園制度」などの新たな制度に対しては、現場の人手不足や安全確保の観点から慎重な意見が多く寄せられ、制度設計に現場の実態が十分に反映されていないとの声が目立ちました。また、監査や行政手続の負担に関する意見も多く、制度面での改善の必要性が示唆されています。

さらに、人員不足や配置基準の厳しさも大きな課題として示されています。現任保育士からは、日常的に人手が不足して休憩時間の確保が難しい、支援を要するこどもの増加に十分対応できないといった声が寄せられました。離職を検討する理由としても「休暇がとりにくい」「健康・体力への不安」「責任の重さ」が多く挙げられており、人員体制と業務負担のギャップが負担増につながっている状況がうかがえます。

また、潜在保育士については、家庭の事情や働き方の制約を理由に就業していない層が多く、短時間勤務や柔軟な働き方であれば「働きたい」と回答した人が一定数存在しました。一方で、すでに他職種への志向が強い層も多く、処遇や勤務環境の改善だけでは再就業につながりにくい層が確認されています。

総じて、今回の調査からは、保育士が担う専門性と責任の大きさに対し、処遇、人員体制、休暇制度、働き方、制度運用、社会的理解といった広範な領域で改善の余地があることが示されました。これらの課題は個別の要因ではなく相互に関連しているため、保育士が安心して働き続けられる環境を整えるには、処遇の適正化、現場の声を踏まえた制度運用、職場環境の改善、柔軟な働き方の選択肢の拡充、社会全体での保育の理解促進といった多面的な取組が求められます。県としても、現任保育士・潜在保育士双方の声を踏まえ、国・市町村や保育事業者と連携しながら、保育人材の確保と定着に向けた施策の強化を進め、保育士が「働きたい、働き続けたい」と思える環境づくりに取り組んでまいります。



実態調査に御協力いただき、  
ありがとうございました。